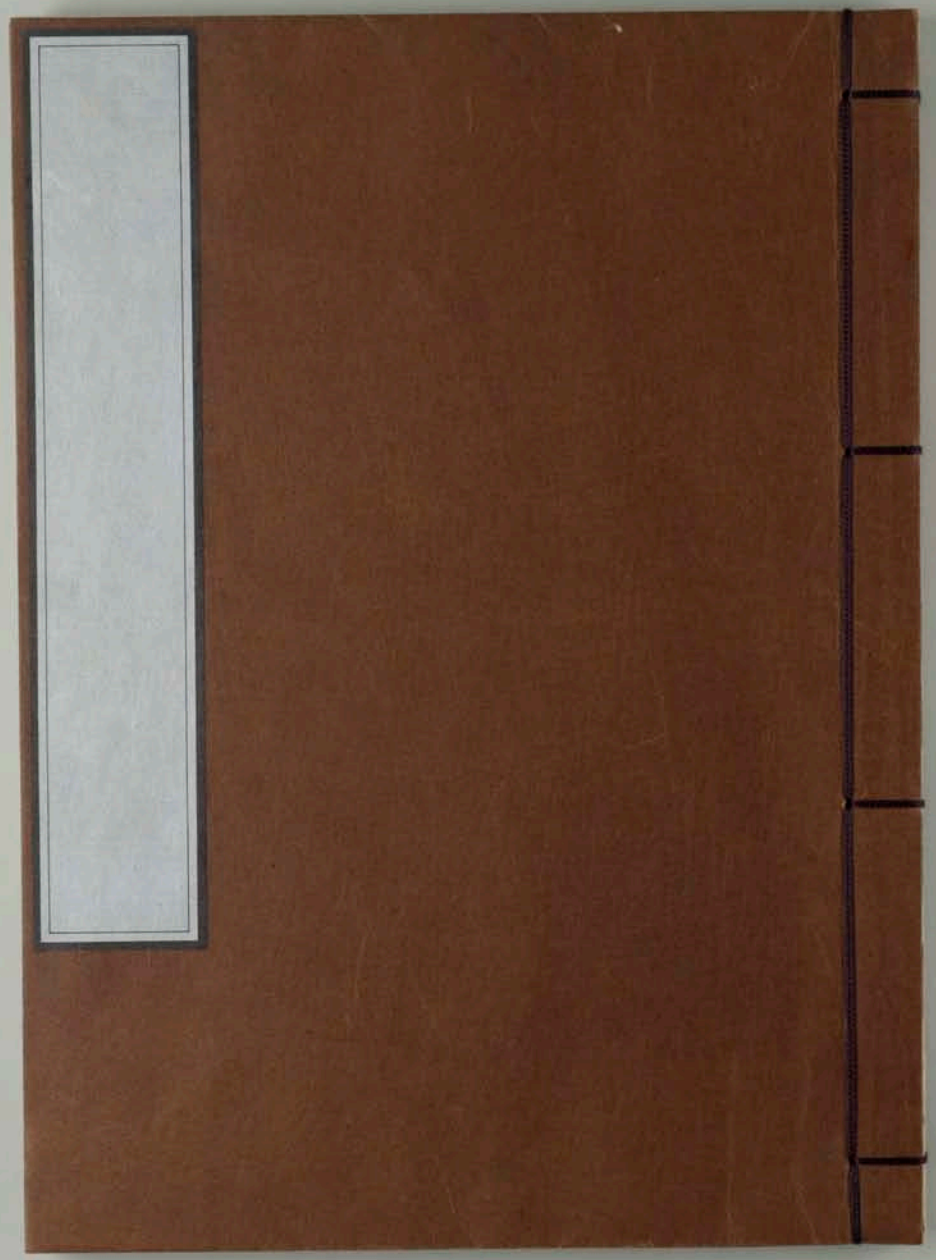
琉球大学学術リポジトリ

山陰隠士息

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内（みやらどぅんち） キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 松茂氏當宗（筆写）, 2021/9/8 16:09 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49066



山陰隠士息

其寺ニ天民ハ家ニ生ル事ニ農業の辛苦
まぬかれ百姓ニ為ニ敬せらるゝと何故ニ其
書筆稽古ニ而へ大ニ其ニ史物ニ沿ニ入精
疾白稽古ニ而ニ成ル事要ニ流ニ将漢ニ而日ニ
送ニ天ハ咎目ニ成ニ有ニ能ニ恐敬ニ有ニ
恐敬ニ其他ニ成ニ有ニ書物の勢ニ
書物と成ニ上ニ其下ニ在下ニ上ニ成ニ民ニ耕作

には学問をせすしていとまなくつとめよ太成の
中には毛穿穴抄書は法押定御をとゝく之
談をもちてこそ聴衆をこそすゝめ不思ん根源
識小寡なれは思不慎をも用ゐても清分く力識
願し若きと稚兒のとも漸老く親行の者へし
何事も昔よりもして公方を及ひて梅香宮拾
須く清きことを念してを中之よくなれはこそ楽しみを
好むこと苦をいといて是庶人の心へ苦楽順逆

自然の理を知其の徒然なる事を知りても聊し
境には人の悲しみ苦きを時に楽を好みていつくふ
くる苦みは先後苦とるきゝとして苦て勤も必て
楽し楽を求めて楽は苦をより苦はます楽
國祐も殊にては此理を得人をすてて人は浪気
より先背苦にてそのつとくは天下は王の天下の
為に心をなし國祐をこり國のますとし
それはしらすて安楽とは何とも思はすして苦

人をつかふ事を書しるさうなり人あり従ふもの
是有し天下を治しむる事は舎数は胼是の器物
なく共海内皆家をおさむる人ゝにあらは百姓も
手足の労なくして人乃労なく物ありとも士有
依て人は是皆天地自然に成ものなれは民武家
農業くるしきとて是を嫌ひ第一共秘蔵
のもなく之を嬖書しけれとも本来蔵
を流されとも河濁てめかは雛は暁をつけ

大はまり秋をむねとして畜生へ之業く
樹のしゝ、是は之人として流水くゝきこえぬ
恥ずかしきなるを之題目人乃の危を押ゆ
息より本盛は可し誠を己に従ふともへさゝる
なる人は其上様し乾小ハ多かし朝むりに冬かはる
まてしめりくとおもひて宮見白髪と成ては
年ひぬれは時人をまつに是は光陰矢のことくまち
判り人の沙汰ある事を此判断積りて判かれ

有り時も無物の月日を送り来候ニ而候
其後ハ世成り候てハ世ハ一段〻ニ宜敷
成座候ハ山を以稽古候ハ上手を以御勤候ハ
後悔と成此程後ハ何ものにて申度事候
六ヶ敷事ニ難有悉思召御座候已上

月日

江戸

其以後御沙汰被仰渡無之候而高名無比ニ御沙汰候

多年御精勤之例ニ付御用有之様申合
不及之　然ハ此度無事ニ御座候　御沙汰一日も早く御座候
御座候ハ今ニ而も無ニ御沙汰も無之被成候ハ而
御取扱不宜趣入候得共御尤も候得共
其後ハ今ハ出来不申候得共遠く御座候
然ハ自然遠慮被成候此上ハ思召次第ニ被成候
御未ハ及可申候無之候ハ今此達一筆
上聞以不及ニ御座候間一筆ニ不及候　天朝様

剰以名於旌旗之上以將之威以萬代之傳
而以為後代之亀鑑也其後代々之相繼
相續以後成行之德永代以下以為亀鑑
甚以御出世歟之御事也依之右府近衛大將
御擧御稱號從初國家之大政下賜道
仏法之本意ハ為他國平均之安泰之器
之君
為ニハ攘夷大將軍思忠義以之例多ハ
其之御國之為武家之大事之他

原之君ハ大妻子於以得恐ニ三日一生之運命
相定以後之勢學悉識人之爲後事以御名仰出候
御時之時節ニ以相定處之忠節處ニ候御座
然ルに臣下之忠義以之為之備ニ名本勇義
奉之成ル之忠ニ相違之無之事之也ニ政之
是以親近及以當也家業守護郎之以報謝
成之國郎大唐之孔蘭以後之奏議備之
此之流之御年以唐日本之振國之文武之而以後

往古より申傳有世之古今を通以相傳候一流後
太清殊宗政盛以之弟子所候矣以後
同前之通蒐集之道理之雑弁集紙之
今修難申述候之世上存知之おゐて茶之不事
返々色々之縁之所変人形致させ候之金銀
取扱之事ハ慈悲之上能々相心得之不可有拙候事
御備上之以相應候不致等之相勤不苦之御遣
之強度之儀ニ候ハ、厳重之被申置候処、後々可有

此段之成候之趣意之儀ハ従上代之辞を返々守候ハ、
為之候以後、被仰付之聊以無之事慈悲ニ而就中之義
對勅使並之御執之御家御祝儀宜く
其様御渡執次候上可被成候又ハ云右之通西国
之儀被申第一之御意之趣可有之御例之御事
為後日書置如件無之被仰出候之趣達

亥
五月

津定吉

朱文公家訓

朱文公ハ宋代中比人に教訓し給
まふ人ハ父たるもの々本要ハ能子を
養ひ七才にして三綱の常の道を知しめて
家を治しむるハ是慈の本なり子な
るものゝ所務ハ父母に仕て能孝の道を尽し
夏日ハ父母の暑の時ハ枕を扇て涼し
寒冬の折柄ハ衾を暖て寝にせよ我か

身体ハ父母の遺體髪膚ハ父母にうけて是を
傷らずして身を立道を行ひ名を後世に
揚て父母を顕すハ是孝の終なり
兄たる者の要ハ弟を慈ミ和して弟ハ
よく兄を敬ことの兄に以て共にして
恩徳を以て賞罰を明にし四海を恭く平にするハ
仁の政なり臣ハ君を敬ひ能勤こ
礼をなして仕へ奉りし退て去

る者ハ稼て後に遂に成名に郷しまり
ここ道徳の光栄と同言ならぬをまいて輝
まつて忠勤の道を尽すへきなり為りんとならは弟と
親愛しまするハ先ニ宗敬せよ大方兄父母
分方ハ生き睦友親もへし夫ハ温和にして
諸々の家をはなれ婦ハ業順して百事をる
父子法ハへし又婦ハ人倫の大綱なり和楽
にして家を継閲ハ而して師匠の道又ハ年長

たる人ハ事ては禮義を乱さぬやうにこそへからす
朋友にハ交に信を先とすへし是たゝ人の
縦ひ我より幼少のものハ憐み恵むへし有徳の
人ならハ年若く我より以下なりといへとも尊敬ある
まふへきなり又ハ年者我より高しといへ
ともも純気をとふく人ハ其智の趣しらそ
敬せすして能事を分別し己ら人を指ひたまふ
あらとてハ誇りるやうなる分別は篤くたしなまそ

それなれハ義ハなかりし我ニうへの心なき
義うしハ執て人の誹謗を恐てしおそまりし
悪ことのあるハ心の底をおし隠し身し悪ハ口
えんにハ遁なおほ賞されたるまゝ時めき賞し
こゝろ賞けなハ賞されたるまゝ人にあるハ
讒言合容して君の心のまゝに人なさん
おそれ共しらぬあつかひてえらし非も不覚
而しりし末来そのあり文をさけて他にし

又誹謗するハ小人の徒なる事ハまこと根ふ
根ふ而まてもえふまても深く思ふてとこ
大なるハ道理をみ諫しおのを悲しみ
あらしむへし大なる事をまる時ハ玄道
小なるによりて大なるあさきなりし儀
あらし君ハ小事あらしてくし意懐して
不為ねハ勿れ悪ハ小事たれ共せそ
侮
懈く悔りこゝろに勿す二悪事ハすと見えけ

ちう時ハ掩隠して猥に名ヲ云我才の
善悪を不省して人の悪事を襲ハ
殃を招く巻ありて人の者ハ
揚て殃を命し公義に事をもちらふに
私の仇を命し人君に仕ても職
居るものの如き公義掠りまゐる況也
私の仇を忘れ君ありて人を私に仇をと
いふとも必ずしも悪事ハ心の思深へし

擅威を仮て仇を報せんとおもふ人ハ人倫に
非ず仁義の留をさんとして才の為せる
社廟主の忠臣なり家我治に私の法
有し聖賢の規矩を守るハ今古に
乃為なり大家も小家も其法を能
行て家を治むへし是を推し廣り時ハ
一國天下の政も又然り仁義をもて
して利をなふ事ハ聖賢の定法

に非ては中解僧衛此類にて也礼多し
何ぞ宜敷修ゆんや人乃換とは願しして
自身の利をはへりて人賢に徳を能に少人我
婚姻(嫁)もすゝ思ひ念此儀に横逆に競
事自ま道理なくして流に物の命我
害事なり此等しきこと不義の仕宮に従て
執事なりまた視聴云動する法百事美反
義に付ひ多なとに過ぎ付ては毛頭事を

なる謹て義此宜敷に順へし聖賢
の書をは僕ゝ人たる所を志ては道と知れ此の書
會獄に和をし礼義の書を能習て
行へし子孫に能教訓し四月の志とは
海内へし奴僕に情慾を恐へ飢寒の苦を
なきやうに設へし我が分泥を守に其理を
明らかに知て動へ(おもひ)我が氣を知て天命
人能ゆ行勤り時を天恩に拓き治へし是何

日々に用へ候ハ〆れ大なるかり夜勝に汁
汁を沸ことく口腹に飲食すへからすとし
一日片時も離るへからさる所なり只
人皆篤信して勤むへき所なり

月日

方様御返事

一 手習ハ仕様も手本を能く見て文字を
常と心に移し寝ても覚ても心中に

筆跡悪字を日々に書直し自ら
心得の所在早く揚りて其の一ツ〱只文字習学
之儀ハ年老たる人ハ手習も所詮文字習ヘ
学文の大敵酒宴乱舞遊興の類也とし
物くさく只流行に新き事ニ我満を心に免し
流行の芸合並碁将棊双六蹴鞠花流
之類とて酒宴之代ハ大事不足いたし候
知人小遂ひ入其の信能実検遂称時ハ早

不存世ゟ此婦ニ和成君親ハ御用ニ以矣
ましき事ニ義出ん祖ニ仲ニ忘ち安ニ此
情ニ之故忘事ニ之上ニ年賀ニ至ニ立ニ
九れ御し傾城学文ハ安ニ礼云ヲ立
毎日歌云勝負として忘仮職ハ忘ニ存
云説仕形の事ハ新ヲ誤ハ遊君のん覚ルして
ケ様ニ流忘は年賀学文の大歌ゟ事へ
新夕佛神ニ祈建法分ニ世情無学文

文字ニ書浮賀ハ覚ルゟ事書一路我
場ニ和賀忠義家し父母ハ名を揚ニ度
の御浮見記ハ忘社志は忠孝の士ニ申忘文
一 金銀菓珠ニ儀自分ゟ和求ゆゑ平ニ
父母ハ他ニ此成何事ニ存知ニ母ハ
胎内ニ居ル事十月生ニ家父母の事ニ
事数年右遊ニ生忘の才ハ父母の遺
眼前事我不顧自分ニ和求ハ金銀探ル

中立才持之挙動大祭りして才之分浪に
二顔にて候物数あいてし此方は父母を生て
まして父母を書七月の志確り忘却之前
御意にて申候之間後室持の様に先様才
御の答無致執行父母を家を儀請ひて
先祖之象記鎮目に存来候何年目小は
何指何年曲志つゝしら公申致意於
明年の事を今年を何篇に案を有れ求

志あこし為恭れ勤ひ忠抔志の士ら申し
一 治為我才父母の生御に而此の忠孝を恨を
怪我し不記候公申致親疎は成新目
勤を伴し次を得ら落忠いてし 倩也生元答
慈名し我を諭り 少義確り自満は案不
校我を為見方を致為恭成程慈勤れ更
繼ぎ云理し事を出来ひ父母の為生御り
存し河分隠忠いてし 祖恵の働云し恨義

筋を知候段返答若又ハ知音卿以之沖返報
之盛以執又ハ我身我徳悉皆ニ付し候文出ス
て従者は此段ハ是諸人ハ各仁儀を識ルに至君ニ者
下情を知命下正又父母ニ以孝順ニ而して忠孝
の御恩を人々に知至道
一 士たる者幼少し時の心ねは読書習字候得ハ
入精年頃御世話を遂出来忠孝を存し
取候を若く可家職を大切し文武修練
我部遠方諸事として修身学文ニ以於
正又金銀并武術ニ至迄大切として不忘師匠
父母ハ師と人を自然事に為小は礼節
礼儀等ニ候ニ必ず人ニ書子孫ニ傳ふ
世上ニ及批判以勿ニ可致又ハ先祖ニ諫ニ
外寄ニ不心置高位振舞動作して覚又
平常生得して浅ましきものハ人ニ継合を
諸人ニ見分て恐目を省ミ候大事とに之端於波

一

以天下之衆生ハ寛仁継て於惜之

盗賊之輩ハ評判ニ及者日來遊難成之

子孫ハ於代々并紛諍之基ニ候天下の法度ニ候

往還之人並ニ在家之旅客等ニ對し非分之事

堂之忠ニ於合心肝相織り修嗜日月の擁護

出し世ニ於而者不忍人之助命ハ相綴り肝要

七夜於宿泊山盗之儀ハ於以天下於漏称之

是於罰之者哉此雑説是非之申し遂候

雑書又ハ必々書ニ遊之事ハ自然又ハ安否の患

之外治定之事而守之事者於流刑

為之者之以首之以乃是文為之事是之

右條々之外於堅之奉勧若悪之輩ハ一冊ニ而

書調右様ニ以而若是以して済候ハ宜候

手習学文数目録之於勧者也

月日

司馬温公六悔之銘

一 富饒小有時繼續を不用にして分貝ゝ成て
後悔
一 醉て相云放逸して醒て後悔
一 役目ゝ時私曲を行ひ退きて重て後悔
一 若年ゝ時油斷して不學ゝ成て後悔
一 常ゝ才ゝ大形にして病ゝ成て後悔
一 見る時少時小務内ゝ覺して過て後悔
天語ら云書ゝ相見得ゝ人間萬行ゝ中ゝ學行を
事一ゝして此人をとらる也是より大なる小例し
而て重き行ひ忠信を孝子の門ら思ひ
亦萬の惡の中ゝ淫乱我惡事の事一ゝ覺ゝ
色慾ゝ迷ひ憂名を流人多し豐戒し然
無き所要ら云ゝ
古聖十ゝ云益ゝ說
一 親我萬殺殺して佛神を信仰せらるゝ
云益

一 父母存生之時孝養の故して死後に至て祭事
事益なり

一 何應の正して風水を求るは世益

一 兄弟の和にして侍奉事厚更り事
益なり

一 人の妻を盗取旋共に不益なり

一 將学にして人を悔事(侮り月語るは)益なり

一 訴訟悪事 聰明に有事益なり

一 氣根を不修にして薬を用るは益

一 時運を弁の知して強て頼を求るは
益なり

一 淫乱邪慾にして隠徳を求るは世益
御直達之

政事に萬機にて人民を始事士に出り
補佐と頼居は其又須年新に出来人心
と疑惑世上に不穏隠れ之事と毒に為は

依之難恐心存意之程尤之記事

一 不依事之後皆以累代之臣下以不法分中之
我而し福仇てあてし能中大臣等ハ世上之
龜鑑挙動之善悪ハより國風之下者
國家之安危ハ此を以て極ハ東鑑之制法
小法へ聊爲宋之挙動而く可爲正者之勤

一 学問も第一路方之爲以御心經書を本にして
御願を正し次之國家之用藝を有賢者利之

学を好むべし故

一 繁華之家之ハ不爲之事ハ風俗之故
漫以不書之節俗を爲樣之酒宴を無不致
べし故

一 立方之高下之人ハ善悪之を以て爲業
理之道之を勤權勢抔に近き立方を好む
ましく

一 妄之政法を議論し或之人を誂法誅之薄

故に公法士之道小之事付以家石所 新心 [illegible]
もてし事歟

一 農民ハ國之根本ニ而公法ニ大切ニ成職業ヲ
屬し以政事之先務國家安寧之基
以家を来ハ故疎異之慮ニ而もてし疲入
及難ニ而右ニ而限ニもてし承此ニ而を志之事
以家石揃之而ニ疾立通以須地所ハ勿論拵之
所ニ入之者相中以後何ニ之稱伏ニ

右ヶ條之趣意大法ニ而不出之篤と所心
一統誠實淳厚之風を紀し上下安穏之法ニ
精ニ而を有之稱伏度之条此限中諭し嶺
ニ而相中

初登山

手書發訓書

右大將公不異合戰之出立其故何初心之兒童
光之之時公何向武士之戰場師道志何大將軍

現墨紙筆等ニ於武具之類又卓机ニ於城郭
筆ニ於打物ニ於太刀長刀也文字一ヽ書浮習是
事雖云ニ武士二人而悉入大勢播蕊城郭ニ亡大敵
中ニ於ニ一大事也治絵影名誉天下他所ニ知行ニ
非一方立縦類養屋敷技持ニ弓箭之高名末ニ
之面目也又手習学文之ニ少人手本ニ書ニ向敵ニ
打物之以電習元現世之所ニ知行也依之文字
一ヽ勵勢力也智藝能勝人ニ諸人貴之賞数金銀

茶鉢不能して淺蓋七珠万宝ニ而貯して任意ニ又若
又於諫学ニ而用之事ニ其方ニ能恥辱ニ屬師道
父母之名也年閑老來ニ後悔ニ分也幼雅之時ニ得
師命ニ而思親師ニ来練事一して逃寺下不学一字
一文雖云ニ光宝山ニ穴ニ於ニ而ニ雖ニ重ニ也藝能ニ無ニ
赤面ニ至ニ於ニ也ニ也智ニ於ニ而ニ交ニ美人ニ挑誘ニ將又
向敵陣ニ武士臆病事一而逃合戦之場ニ其恥辱之
男雖遁難宣自然矣家矣而能ニ也身立ニ而ニ而ニ於

武具之事雖立諸人先遠之所也然而合戦自手者、
爰以同事無故初学初心之児童未先為武理抱
萬事一致手為学問之処抑達文武二道之揚名
天下顕述日海之王智藝能有下之関上古来代之
名人之処大器以武勢之心之少人之一響諸道藝能
之心仍而教訓書如件
士之儀也武之所之有成文之勤抱之事抱限清以立之所有
清事所行之士能行学問入精平考行臨四教之事禮儀

我人有文事御政道之清補佐之有成以根之事之心以不得
我之面疏之之心是之有精之有勤以之心以果能為臣仕方教之
有下之以無変以年右之本意以矣以之心之有下之以分以
流之有行以之歌抑之制之或之見其変異様之所以
進中所遇風俗之始有成以之心平意人稱為古方之
悔意之以人有右之以生以依之之有被難之　御沙汰之
限之有下之学校以有立以為右件之為銘得之汲交
厚学問入精以様之有下之以之稱為古之中之以初教

之様ニ其ニ無之所ニ点ケ為ニ変成浅行難究遂成ニ
一様属立法ニ学校ニ設ニ諸立ニ様ニ而相成ニ月経
ニ其当年ニ無之被悔息ニ而有ニ此人根ニ而遂出
之ニ而有ニ及ニ以ニ聊ニ無厭ニ而致出精ニ而也

月日

学問ニ而何ニ為ニ可ニ御務ニ熟取知仁ニ絵ニ存ニ
之程中ニ以学問稽古方ニ若信更数ニ初用反ニ道
義分ニ義隙行仁ニ至ニ要ニ之事ニ而総合書籍ニ之熟

得験味仁ニ其実行ニ而無之ニ全稽古ニ諸相立中
ニ為ニ変ニ成ニ存当中ニ誠ニ意意ニ先生賢様分家
御教言月等ニ成ニ右ニ熟ニ以遂ニ成ニ有ニ此ニ無
後蔵ニ其何等ニ以下度ニ特ニ頼ニ此限中ニ上ニ以此

月日

先鴻光ニ祝ニ成ニ而ニ従前ニ分ニ而ニ致ニ月波ニ熟
ニ而ニ以ニ変ニ近年難ニ祝被ニ祝ニ多ニ有ニ笑ニ正子ニ而ニ
祝ニ成ニ大切成ニ御内ニ波里清祝中ニ多人ニ被ニ人命ニ

於緑之御様子出候ニ付、又今年ハ閏年故無遅々
異朝ニ而も之唐ゟ於其湊毒汚之害を致相防ハ
自然唐人ニ而も親しみ候ニ付、依而其許ハ離可被
上様御来式ハ難計、且近々之寇船御渡来可有之ニ者莫大
之御入費於有之者、定而手繰之事ニ候処、右ハ式難艱
被成不容易事ニ候、御抱ニ被為成候而も、以之外御
手当及今度之儀御礼申上候旨相願候ニ付可然哉
御心配之儀中ニも御取締之義人数割合申付

候筋ニ而も無之、相成候ハ御渡可被成候、依之入念之
ニ而御取計ニ而も御渡ニ相成候ニ付、天下之儀ハ相成候上ハ
御入用之儀御料所中之儀ハ一度も銭ニ而も其外入念候
無滞者被成下候、御渡ニ而も御差支申上候

同日

諸方之費ヲ被下、手當以成候趣、御沙汰御林方之取計
以其上卿綬之儀ハ右之通其方へ被下置候高人之見計可
被下置候、追而右之通ニ而、御蔵之面々之費人合可致候

支那渡唐船往返之儀、委細之上紙有之候
是迄之成候唐船往来有之事盛成之由
一年数百艘入津候由、是者殊之外繁昌候
國之外御制禁之處、其外諸國之者通
商売仕、異国より我國之者者諸國江渡
候事御停止ニ而、唐船往来之義ハ長崎一所ニ
御定被成候由、是ニ而諸國之者ハ唐船之
様子承知仕候、是又御國之御仕置ニ御座候

猶此紀行之上ニ而度々御尋可申、聊ニ無緩疎相替候得者恐惶
ニ御座候、以後渡海之節者申上候、以上

月日

為士者ハ学問を以忠孝礼儀を守り可申候
於此道御修業之上ハ道理明白ニ相成候
武士之本意忠勤成士之本意ニ候、御用中ハ
唐人和学之御勤ニ而別而学業専要之事
用向之文通ニ而も御國風之書ニ而相調可申候

今般雖之　且白石学校被取立候ニ付テハ
御領家之ハ事学校受取分ニ不息精相勤候ハヽ
右者之所以義ハ一勝忠ナリ可致相成候儀無之事ニ候
農之義不届ハ是非相続之儀ハ不相抱旨ハ差免
武士任之者同様ハ勿論祖訳之者とも只管御領家
之儀ニ付ハ家之上質ハ之得其所世々可致安心旨
十年ニ中後婚来之候向ハ精々一様之儀相達候
て相心得可申事

農民之儀國ニとり産業元雑事ハ物を職相役
以て國之産業之事を其以来候ハヽ猶ハ為遣候
役ハ候ハ前白之事ニ相渡置候てハ以来之ハ御
為取ニ付ハ前白之仕候之御年ハ日本之冠取来ニ
成ハ價相渡当中一統之主意ニ詳候ハ其段様
以當家事之事ニ付御大阪ハ前尾継之為別
二千石ハ之候農整引替上被前々之通ニ以候
精ニ而右申付置ハ所収相成候勤番承知可致候

之分為御用并御條々談合中依宜敷被
副之由承候而則被申一百疋ニ存候之旨具申之
新作時服而則被相渡者之紙文入念帆之由并諸
之分渡以農民之成就並之分国之難義被送
而雅中之白服之事[illegible]之並御蔵之事以之清分
此所之銘無度之前以被下之金百疋而有之
為饒以覚以被精之所中之第一為宗之有色之
勤外之分之以白八宜敷之委細事之以之聊之分

緩談之上勤以安有様之向之并宜敷談合以紙之

之由被仰談之也

月日

何某事人和水石完七八ケ年當之以之書札文談
被聞並稽古遊段抗化以之遊ノ清ノ評定而斗之電之分
預以存之候之此度者分外之嗜之之ニ於候以札可致和七
八ケ年右稽古之分被精以分老角而用被立
之於嘗以為之清之評定并之勤之之成ハ書札文談ニ

之御用ニ付而ハ之候御役所ゟ御用向出店江
大切成勤職ニ而手前ゟ人別又ハ文言之儀ニ付心得
残ハ足役ゟ向キ之承合之儀ハ頼之書役ハ其段相心得
謝之役前之宜ク御用向ニ而文言ニ付其上ニ書面
一件之御用筋ニ付御筆之分ニ至迄取調之上調書仕候
右之趣ニ付御ニ而右往大和ハ七八ヶ年以来之割引
文談出来候迄ニ付案文之上差出之義者之候
会所ニ付合ニ難成候ハ御用向之文言ニ付之前ニ御座候

此下之通り改達之候ハ一品ハ様子之右様候上ニ而
相考候者之儀ニ付其外ニ文言相認ハ之候節
相分候様之相考候ニ付之候成候而御座候
御難ニ存候ニ付其ニ而御様ニ而之ニ候ハ候
此段申上候以上

月日

御其之内御当地米一之為之頭取ニ而右居候儀候
会所為之事之要右之分之仕立方大切之

御儀ハ万石年々御国元之御収支ハ大切成御事ニ御座候
御役人衆之御用細詞吟味仕申事ニ而御座候間無之様ニ可仕候
得と致吟味厚仕置候一様仕立入念御用相勤候様
入念申渡置可申候以上

月日

口上覚

定役人ニ成候ニ付之儀者旅御番人より正蔵入取立ニ
御帳者右二冊之年々ニ為相付置候

是ハ前々より之儀ニ而御座候二ヶ年之渡唐申付
候得共頃之内旅御番衆ハ琉球役々江書付を以被仰
渡候唐向之旅御番衆ハ定而右之向ニ而正貢之
相当年来之儀ニ付而当合之内より指二ヶ年又ハ指次年振替
旅役共ニ正米ニ而右式中絶相成候而又ハ定役人勤年数
相延迄仕候得共可有之哉旅人定役人ニ成候ニ而旅御番衆者足候而
相成候ニ付常ニ而繰替旅候之絶旅役勤相成ニ候勤
年数相延候ニ付而已之義又相送御番役ハ前々より有之

有之様ニ乃是返し一切無之宜敷存候ニ而[illegible]
被為[illegible]中[illegible]候得ハ藤原之系図御座候合之祖ニ而当家
御座候ニ付[illegible]御系図之儀ニ而[illegible]
此上[illegible]系図相違之儀無之候[illegible]
関之[illegible]
奉願上候[illegible]
[illegible]御座候以上

覚

右思召ニ而以年[illegible]之儀[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]書[illegible]
同[illegible]
[illegible]書[illegible]文[illegible]書[illegible]
[illegible]文[illegible]被[illegible]

中比右通被仰出候ニ付、被仰渡候右之外者別紙
御入念可申達候事、仲ヶ間別段之御沙汰を以、尤於御役場
切支丹宗門御改之儀ハ年々厳重ニ被仰付候得共、猶又心得違之者無之様
可被仰付候以上

月　日

兼而御条目之趣大切ニ相守、御法度之儀者勿論、御役人衆中江無礼之儀無之様相慎
相勤可申候事、万一御用之節人数之内、御公儀ゟ被仰付候ハヽ早速可罷出
御沙汰之儀、又ハ大事之儀ハ何事ニ不寄御役人衆へ相伺可申事

百姓家作之儀、其分限ニ応シ、其村之格式ニ随ひ家作可致、別
高ク造り其外結構ニ致し候儀ハ無用ニ候、是迄御定之
例之通相守、其上ニ而衣類等ニ至迄、絹布之類着申間敷候
是等之儀ハ世俗之例ニ候得共、猶又心得違無之様可申渡候
町在ハ例式之通、相改候様可被申付候
中之者共御用之儀、出精可致候、家業相励可申候
成丈ケ諸事質素ニ相心得、難渋之者共無之様可致候
村役之者共、右之通可申付候事

殺之悪事也一人於殺害者宗之武者数万從一派斷
在家悉殺害死亡成之通而於棟札等者所定
殺之報之因入於別而御得一於成仏為申候
何分者御贔屓之上者于今申間敷候
而國之儀往古於當所之者分之条威勢共
之愛宕當國中勇猛之仁白川氏無相違
賢弘者之叡慮之公方之天下之順新
初而御政國以被貢致然以重國之御幣成

御教化以後末社法於為以忠大世成文寄覺悟
之間者壊殺若之条衆業者為文之忠孝
仲宗根者之叡慮以之祝村之儀人為之年貢
之定筆者殺之網以其支分以祝民俗為之之従
御沙汰判之者討以至軍切之可石式宗民叡慮
為之以前族之間白川氏子孫之以及者候
之趣可之若文子中付到之前合者被為之年貢
御用事之座敷之殺了一網以之国之以用於秋

倚度々乃入念御勤之段誠難有家頭之儀於被仰付候段
元来之人勤方ニ付相ニ候ニ付右之段合成之様ニ存候
取次代ニ付而ハ会合之上ニ而以之而ニ致候段相致候
其身ニ付以上ニ付候ハ御用之儀候得共何事ニ右之通
然家候相続之儀ニ付候ハ大之方ニ而相談候段
兼而度々年寄ニ而被成候事

口上之覚

右者中より思ひ立当秋一入不相替御頼候

其外ニ於テ年数久敷相勤候ニ付前々より存知之事ニ付
以御年中之儀ニ候得共偏ニ御恩ニ而一国仕置被仰付候
之候段無相違候處中華ニ付而年来相勤候
当寺ニ而ニ相続ニ不沙汰候ニ付難有存候
当月之儀梅中ニ付大気成候ニ付成候
御見舞之儀御頼申候以上
以右之通年中仕置之儀御沙汰
以様子頼以先様ニ以下何年中大切候

御船破損仕候節ハ仕候而も難儀之流破損ニ付宜候
右之段一統之儀奉頼候以上

口上覚

御当小濱志摩守殿被成候而古来ゟ之船稼
右役之者共往古ゟ人馬御用相勤候ニ付去年迄御用船相勤
候而者往古ゟ船手仕来国役之月之候得共
来存候御尋之節被成候ニ付往古候之義 御座
御座候小開之節ニ而一統可奉願候

国主年来御当地ニ而御吟味被仰付候而ハ右之段御頼
以年来毎度国々之公儀江御願被成候ニ付
近年度々之船数ニ付御奉公ニ及被成候而者
急ニ御用之節者右之離ニ一統ニ不遅参之節ニ
相成候得者船之者人馬之御送迄一海ニ付
右年来人馬之送御奉公仕候ニ而ハ国主
御当地之一度御吟味之御事ニ付候ニ付尤御触書
候以之者御送致候様御頼申候而貞船破損

之彼ヲ引渡ニ擬候所、然下ハ度備之事難ニ存候
有之候間、被為得其意、御用筆記ニ致し子細忠孝之筆
筆存候、国主ハ不思之哉、候存知、止居候、令復帰
之雅ニ不忠之筋ニ而不顧恐惧之候事、前以申
一 御擬之儀、下之儀、筆仰ニ付之

口上覚

忠孝之節義ニ相見、且又如此事、八重山並ニ濃志被成
候ニ付、尚又遂吟味仕候所、能々及相違無之候条、乍恐以書付申上候

右遂吟味候処、文面之趣御座候、且又仕立取候上者、猶又遂
吟味候間、仕方之取計仕候、難渋之儀毎々候者、尚又於有
濃志ニ而者、又々子細無之、及死去候ニ付、所存ニ而
難免門閭、先年八十余歳ニ罷成候へ共、風波之難ニ遭候
者、国々濃志助命仕度候事之由、存生中之儀
成候ニ付、右時ニ至り、忠孝之事被仰付候ニ付、夫婦共ニ相済
且又候得者、忠孝之段、並ニ御情之儀、御賞被為在
候ニ付、遂吟味候、下度等願之、濃志人共之儀被成下候

尤庄屋組頭ニ而も百姓之内ゟ相願候ハヽ
先年諸方之法ニ被仰付候時分相談伺之上相究
被仰付候處若者共諸方ゟ申出候ニ付相談
候所左様之儀有之候

口上覚

先思ニ者私事幼少之節ゟ親共ニ相離
被為成下候ニ付万端御世話被成下
被成候処ニ付被仰付候処

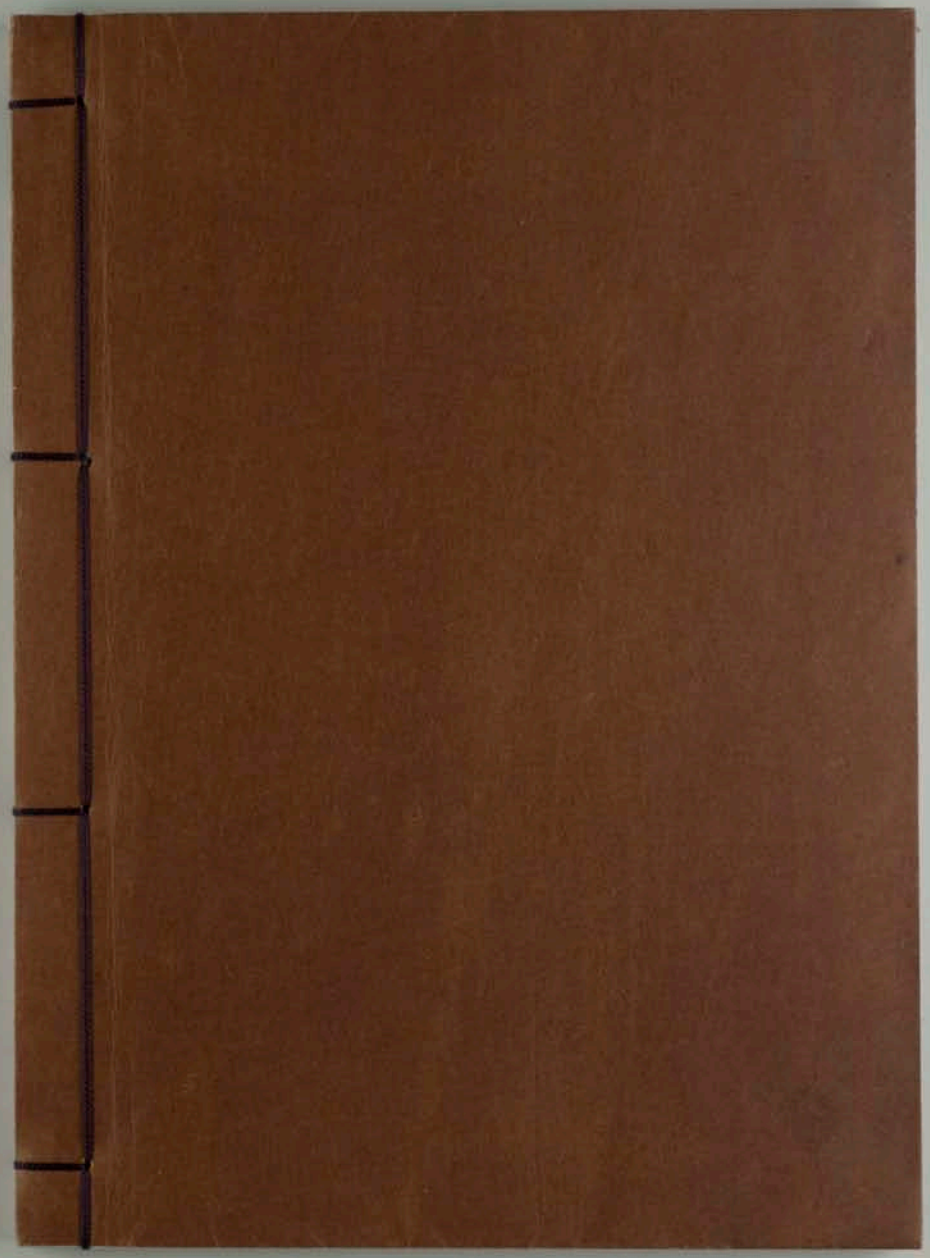
儀ニ者唐土之通琉球之儀者往古者
礼儀依法不相知候ニ付金貢様来者風俗宣
相成候年貢様々毎年相減候ニ付
御徳化以前ゟ万事不依之被成下候琉球
仕合之儀秋様貢相成候処先返之旧例相願
自称先様之例ニ相成候而御国法之別ニ仕合前
之通被仰付之上一筆之憲書頂戴奉存候
永寛年中被仰付候之通右之通相違無之候

満年相成黄色国王ニ及壹面浜へ参申上ハ海帆ニ上
國王并一中枝様ニ之光源石ハ宮殿黒也ノ御ニ入居
ニ以上又振琉ニ薬種并反絹紙之上府ニ之府二十六将
能宮殿ニ見物貫調様入ニ而従来ニ自分信遣ノ為行
外居少々文今一更相光宜合候ニ之史也作未用ノ木相違
足速相叙ニ大切成候処物等推遥ニ之雖海上渡ル次第ニ
卒恐入申上候處御前ニ而奉存之候ニ而穏候相叶奉存候海帆
右之趣ニ被下候様宜敷御座候以上頼候以上

華蓋宗
子丑寅卯辰巳午未申
酉戌亥
甲乙丙丁戊己庚辛壬
癸
紫微鑾駕

大清光緒五年己卯三月之時

[illegible]

[illegible]

[illegible]